別添３

〇中間評価の結果について

・「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される。」（４校）
＜学校名＞
渋谷教育学園渋谷高等学校
名城大学附属高等学校
島根県立出雲高等学校
広島女学院中学高等学校

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」（16 校）
＜学校名＞
北海道登別明日中等教育学校
茨城県立土浦第一高等学校
埼玉県立浦和高等学校
筑波大学附属坂戸高等学校
品川女子学院
お茶の水女子大学附属高等学校
筑波大学附属高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
長野県長野高等学校
立命館宇治中学校・高等学校
立命館高等学校
大阪府立三国丘高等学校
神戸市立葺合高等学校
愛媛県立松山東高等学校

・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。」（19 校）
＜学校名＞
宮城県仙台二華中学校・高等学校
早稲田大学高等学院
順天高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校
国際基督教大学高等学校
玉川学園高等部・中学部
富山県立高岡高等学校
福井県立高志高等学校
山梨県立甲府第一高等学校
静岡県立三島北高等学校
京都府立嵯峨野高等学校
関西大学高等部
関西学院高等部
奈良県立畝傍高等学校
西大和学園中学校高等学校
岡山県立岡山城東高等学校
徳島県立城東高等学校
大分県立大分上野丘高等学校
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

・「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。」（15 校）
＜学校名＞
北海道札幌開成高等学校・市立札幌開成中等教育学校
札幌聖心女子学院高等学校
青森県立青森高等学校
群馬県立中央中等教育学校

高崎市立高崎経済大学附属高等学校　　佼成学園女子中学高等学校
公文国際学園中等部・高等部　　岐阜県立大垣北高等学校
愛知県立旭丘高等学校　　三重県立四日市高等学校
滋賀県立守山中学・高等学校　　京都市立堀川高等学校
兵庫県立姫路西高等学校　　山口県立宇部高等学校
熊本県立済々黌高等学校

・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される。」（２校）
＜学校名＞
渋谷教育学園幕張高等学校　　大阪府立北野高等学校

・「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーグローバルハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される。」（０校）

〇中間評価講評

1	北海道登別 明日中等教育学校	〇校長以下全教員がアドバイザーとなり，全学体制で取り組んでいる点が評価できる。 〇アクティブ・ラーニングについて，北海道教育委員会の研究協力校も引き受けるなど，ＳＧＨ事業の成果の普及に取り組んでいる点が評価できる。 〇今後は，授業での日常的な学習と本事業での様々な取組との有機的な関連をもっと意識することで，生徒の学力向上や意欲向上，あるいはより大きな自信に繋がる取組になることが期待される。
2	北海道札幌開成 高等学校・市立札幌 開成中等教育学校	〇高校と中等教育学校の再編期にＳＧＨ事業を進めることについての問題点をとらえてはいるが，本事業の趣旨を再度考え，本来の目標が達成できるよう学校体制のみならず教育課程等も含めて再構築し，ＩＢやＳＳＨの取組との整合性をとっていくことが必要である。 〇課題研究テーマを精選し，指導体制を整える必要がある。 〇今後は，課題研究を支える各教科の授業改善との関連で相乗効果を上げられるよう期待する。
3	札幌聖心女子学院 高等学校	〇共生をテーマに，専門家からフィールドワークについての助言を受けるなど，探究活動を充実させる実践がなされており，評価できる。今後は，海外研修における課題研究の内容をさらに充実させ，成果が得られるように指導していく必要がある。 〇学校全体として本事業をよく理解した上で実践しているが，生徒

		の研究発表などは感想文にとどまっているため，この点に関して指導の工夫や改善が望まれる。 〇課題研究にどの程度の時間を割くのが適当であるか，生徒の負担を考慮しつつ全体的な整理も必要である。
4	青森県立青森高等学校	〇学校全体としての取組や教員の意識の高さなど高く評価できる。一方で，内容がまだ国内に向けられており，視野を世界に広げるような工夫が必要である。 〇講演会開催の目的が明確でなく，回数の多さや開催時期も集中している上，一方的なインプットにとどまっているため，生徒にとって効果的になっていない点は改善が必要である。 〇今後，本取組で育成すべき資質・能力を具体的に確定し，それらの諸目標に対して，教員・保護者・協力企業や研究機関からの評価と，生徒自身の自己評価を実施する方策を検討する必要がある。
5	宮城県仙台二華中学校・高等学校	〇取組の具体的スケジュールやノウハウは，他校へのモデルとして，高く評価できる。 〇取組がＳＧＨ活動として優れている。今後，他の高等学校等への参考になるよう，成果の普及について積極的に取り組むことが必要である。 〇メコン川フィールドワークへの参加者が少なく，成果がごく少数の生徒に限られており，この点は改善を図ることが望まれる。
6	茨城県立土浦第一高等学校	〇校長のリーダーシップの下、教員全員体制での熱心な取組がなされていると評価できる。 〇教本が作成されており，すべての教員が取り組みやすく，年間の見通しが立てやすくなっている点が評価できる。 〇市内の小・中・高等学校との連携が図られており，今後は成果の広がりが期待される。
7	群馬県立中央中等教育学校	〇中等教育学校の特徴を生かし，６年間を貫いた計画の下，探究的な取組が系統的に行われており，グループ研究，個人研究，学校行事については，大学・企業との連携を通じて，当初の計画以上に進んでいる点が評価できる。一方で，国内外の大学との連携については，専門性の高い指導や高大接続の改善が必要である。 〇学校の研究体制については様々な委員会等ができているが，真に機能するように，さらなる改革が必要である。 〇開発したカリキュラムが持続発展していくよう，教員の意識の共有化を一層進めることが必要である。
8	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	〇グローバルな経済活動という難しいテーマに取り組んでいることは大変良いが，国際的な企業活動を出発点にしつつも，その社会的な影響や課題など（例えば，環境，経済格差，移民と労働者など）

		にも課題を広げ，生徒の関心を高めるよう工夫することが必要である。 〇指導体制・指導方法を研究のねらいに適したものにし，全校体制に広げ，改善することが必要である。 〇今後は，課題研究での探究のプロセスを，さらに生徒主体にしていくことを期待する。
９	埼玉県立浦和高等学校	〇各教科において習得した学びを課題解決に役立てている点が評価できる。 〇様々な取組が全員の教員に広がるように工夫をすることが必要である。 〇教員・保護者・協力機関による評価はもちろん，生徒自身の自己評価についても，今後検討願いたい。
10	筑波大学附属 坂戸高等学校	〇総合学科の学校の特性を生かし，管理機関である筑波大学との緊密な連携により，幅広い取組が行われている点が評価できる。 〇今までの総合学科における課題研究を中心とした選択科目に，本取組の「グローバルライフ」や「国際フィールドワーク」などが加わり，充実した「課題研究」を軸においた教育課程の開発となっている点が評価できる。 〇「高校生国際 ESD シンポジウム」などは他校と共同で実施しており，評価できる。
11	渋谷教育学園幕張高等学校	〇「食」と「交渉力」という二つのキーワードに立ち返りつつ，ＳＧＨ事業を通して育成したい資質や能力について議論を深める必要がある。特に海外研修については，育てたい能力を具体的に措定し，それらを達成するために必要なプログラムに見直すことが必要である。今後は，ＰＤＣＡサイクルをベースとした取組となることを期待したい。 〇教科ごとの取組と学年ごとの取組になっており，全校体制とは言い難い。 今後は全校体制でＳＧＨ事業に取組み，教員間の意識統一を図っていくなどの改善が必要である。 〇研究開発５年目に計画している国際高校生フォーラムの開催が目的化してしまわないよう，生徒が主体的に学んでいくよう取組の改善や工夫に期待する。
12	渋谷教育学園渋谷高等学校	〇課題研究における研究内容と英語コミュニケーション能力向上のための指導とのバランスが取れており，更なる発展が期待される。 〇平和や戦争，安全保障など将来の日本人には避けて通れないテーマに正対し，それに様々な工夫をしながら段階を追って生徒に考えさせている点が高く評価できる。 〇社会貢献活動に取り組んだ生徒の割合，グローバルリーダーとし

		て国際社会で活躍したいと答える生徒の割合が大きく向上している点も高く評価できる。
13	早稲田大学高等学院	○教科横断型学習など，教員の協働文化を作ることができる組織的工夫を行っており，更に高次元の学びにしていくことを期待する。 ○多文化共生はテーマとして適しているが、さらに他者理解，当事者意識，協働的，実践的な探究などを充実させることが必要である。 ○今後は，現行のカリキュラムを多角的に見られるような教員集団や外部講師と連携することで，事業の発展が期待できる。
14	佼成学園女子中学高等学校	○フィールドワークや留学の取組による完成度の高いテキスト「国際知識」を作成しており，評価できる。一方で，対象クラスが限られているので，学校全体へ取組が広がることを期待する。 ○生徒が主体的・協同的に関わる探究活動の充実や探究のプロセスを意識して取り組んでいく指導体制に期待する。 ○全校体制での研究や，各教科での授業改善に向けて，さらなる改革が必要である。
15	順天高等学校	○ＳＧＨ報告会で全教員が参加して講評を実施するなど，教員の意識の高まりが認められる点は高く評価できる。 ○グローバル意識調査を海外の連携高校の生徒に対して実施している点が興味深い。今後，連携校に対して調査結果をフィードバックすることが望まれる。 ○高大連携の取組の拡大や管理機関の積極的なサポートが評価できる。
16	品川女子学院	○各種プログラムは，英語での学習活動とも有機的に関連して優れた教育効果を発揮しており，生徒の語学能力や海外留学などへの意欲が高まっている点が評価できる。 ○バラエティーに富んだ取組を複数のアウトカム評価手法を用いながら実践にあたっている点や，詳細な記録を残している点が評価できる。 ○校長の教育理念とリーダーシップにより，教職員の効果的な協同体制が図られ，効果を上げている。
17	昭和女子大学附属昭和高等学校	○ＳＧＨの展開にあたり，全校的にアクティブ・ラーニング、とりわけジグソー学習などの技法を導入する研究授業が行われるなど，学校全体での取組となっている点が評価できる。 ○生徒の課題研究の内容について，さらに指導が必要な点が見られるので，改善が望まれる。 ○今後は，総合的な視点でそれぞれの取組の意義や関連性を見直すことが必要である。
18	国際基督教大学	○多様かつ創意ある実践がなされている点が高く評価できる。

	高等学校	○研究開発課題とＳＧＨとしての取組，それ以外の取組の関連性がしっかりと整理されており，一貫性のある研究開発が進められている。 ○計画に記載されている取組については，一定の成果を上げているが，外部のリソースに依存する傾向も強くみられる。今後，学校内での取組や通常の授業との連携などについて改善が望まれる。
19	玉川学園高等部・中学部	○全体として取組が順調に進んでおり、「ワールド・スタディーズ」「模擬国連」等の成果が出ている点は評価できる。 ○運営指導委員会の指導助言が取組の改善に生かされている点は評価できる。 ○グローバルキャリア講座など単発的・受動的な学習の比重がやや多く、生徒自身がどのように課題研究に取り組み，学びの当事者として何を探究し学んできたのかがわかりにくいので，改善が望まれる。
20	お茶の水女子大学附属高等学校	○研究開発を学校全体で取り組むための組織改編を行うとともに，運営指導委員会の実施方法などに工夫が見られる点が評価できる。 ○ＳＧＨ事業を推進させるための体制強化，教育課程の改善など，ＳＧＨとしての取組を着実に進めている点が評価できる。 ○社会でグローバルリーダーとなるための女性教育の実践的なモデル校となることが期待される。
21	筑波大学附属高等学校	○学内にＳＧＨ校内推進委員会を置き，そこを中心として全教員が本事業にかかわっている点など学校体制が整備されている。また，筑波大学の支援・指導のもと，高度な専門的観点からの助言等を得る体制を整備し，ＳＧＨ事業の高度化・専門性を促進する努力を行っている点が評価できる。 ○幹事校として，全体的にモデル校となる取組が行われている。今後は，海外や学外の学校や組織との連携をより拡充させ，より多くの生徒が取組に参加できるような機会を増やす工夫が望まれる。 ○生徒の学びの向上や意欲の高まり，教員の意識の変容などに関する実証的エビデンスを用意し，今後，成果を検証する方法を準備し，改善に結びつける体制を整備することが望まれる。
22	神奈川県立横浜国際高等学校	○ＳＧＨ対象者は全校生徒であり，国際社会で活躍するための素養を高める機会が等しく与えられている点が評価できる。 ○専門家による指導を積極的に取り入れた質の高い取組であり，生徒の意識の変容も読み取ることができる点が評価できる。 ○事前事後を含めたスタディツアーに至る生徒の学びが大きく，実体験と知識の融合で強い課題意識が生まれ，深化している点が評価できる。

23	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校	○国語科，地歴公民科，英語科の教科横断的な取組が活発であり，連携が強化されている点や教員間の自主研修等が評価できる。 ○ＳＧＨとＳＳＨをより融合させた取組を進めることで，特性のある教育を実施することが期待される。 ○今後は個々のプログラムの体系化を図り，科目間で連携できるように工夫する必要がある。
24	公文国際学園中等部・高等部	○生徒全員が参加する授業の開発は評価できるため，今後はその質の向上を図るとともに，教員間の温度差について速やかに最善策を議論し，改善を図ることが必要である。 ○今後は，教員間の格差を改善した上で，全教員体制で生徒の学びを支援することが望まれる。 ○報告書等の記述が印象評価的であり，事実や根拠に基づいて評価するという視点がやや弱いため，改善が望まれる。
25	富山県立高岡高等学校	○課題研究テーマである地域社会（富山）の魅力の発見や発信とグローバルな取組が適切に組み合わされている点が評価できる。 ○海外フィールドワークが探究活動に結び付いているかどうかがやや懸念される。海外での学習活動において生徒が受け身にならないよう工夫が必要である。 ○全教員一人一役で取り組んでいる点が評価できる。一方で，教員の意識の変容について，質的変化が明示されていない点については，今後改善していくよう期待する。
26	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校	○極めて高いレベルで実践が行われており，自己評価における分析の質が高い点について評価できる。 ○教科のＳＧＨ化や，総合的な学習の時間の単位増の試みなど，十分に取組が展開されている点が評価できる。 ○学校全体として教員の協働体制が確立され，本事業の効果的な実施のためのカリキュラムと指導体制が組織され，成果を上げている。
27	福井県立高志高等学校	○生徒の主体性を尊重し，能動的な学習展開が見られる点は高く評価できる。 ○研究開発の取組が熱心に行われ，何を行ったかということはわかるが，それを行うことでどうなったのか，どのような成果や課題が見えてきたのかについて，今後分析する必要がある。 ○大学や企業との連携が着実に進んでおり，生徒の視野は確実にグローバル的に広がりを見せている。今後は，次への学びの展開をさらに吟味し，探究のプロセスの質の向上を図り，生徒主体の学びが展開されていくことが期待される。
28	山梨県立甲府第一高等学校	○「山梨ブランドサミット評価ルーブリック」や生徒・教員を対象としたアンケートなど，ＰＤＣＡを意識した工夫が随所に見られる

		点は評価できる。 〇一つ一つのプログラムについて，生徒がどう感じたかという振り返りは今後も継続した上で，実際に生徒の資質・能力がどのように変容したかという観点からの評価を，年に１度程度実施する必要がある。 〇地元の産業界との連携，海外研修，県外のコンテスト等への出場など，成果をあげつつある。しかし，生徒の学習意欲や将来への展望についてのプラスの影響が少ないため，今後は通常の授業も変えていくことが望まれる。
29	長野県長野高等学校	〇探究のプロセスにのっとったカリキュラムデザインの構築や教員集団の意思疎通が図られており，事業が順調に進捗しており，評価できる。 〇今後は，総合的な学習の時間で育んだ資質・能力を他教科でも発揮していくことが期待される。 〇限られた海外研修の機会を有効に活用しながら取り組んでいる点が評価できる。今後は卒業生のネットワークなどを活用し，より多くの企業などとも連携しながら実践機会の拡充を図ることが望まれる。
30	岐阜県立大垣北高等学校	〇多様なプログラムを提供して，生徒の主体的な学びを引き出そうとしている点，また各種のアンケートで意識調査を緻密にしようとしている点が評価できる。 〇課題研究のテーマが拡散しすぎ，テーマにローカルな特色が示されていないため，フィールドワークが企業や研究機関への訪問に留まり，生徒たちにとってローカル性と具体性のある体験・調査などの活動となっていないので，改善が望まれる。 〇今後の課題として，海外フィールドワークを探究活動と一層結びついたものにする必要がある。
31	静岡県立三島北高等学校	〇全校生徒をＳＧＨの対象として取り組んでおり，課題研究だけでなく，各教科においてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善への取組がなされている点が高く評価できる。 〇運営指導委員会の助言を受けて改善に結びつけている点が評価できる。全生徒を対象としたグローバルマインドの育成方法等のモデルとなりうるので，今後も継続願いたい。 〇効果および課題がまとめられており，全体の学生の５２％がグローバルな意識を持つようになった背景分析については明確である。水問題に関する問題意識を持たせる努力は評価できる。また水問題から環境・貧困問題などに生徒の興味が広がっているのは，良い傾向であるので，積極的に研究課題を広げていく事を奨励する。

32	愛知県立旭丘高等学校	○挑戦的な取組構想に基づく展開であるが，難しい取組であるだけに，一層の熱意と全校的な取組体制の構築や研修などによる改善が望まれる。 ○地歴公民科，英語科以外の教員がどのように関わっているのか，通常の授業にどのような変化が見られたのかが不明であり，今後，改善が必要である。 ○今後は，構想調書にある「国際バカロレアの趣旨を踏まえた」という点をより明確にしつつ推進することが望まれる。
33	名城大学附属高等学校	○大学教員の助言を得て作成したＳＧＴにより，育成を目指す５つのスキルと５つのマインドセット（５Ｓ５Ｍ)の要因を分析し，不足する要因に重点を置いてカリキュラム改善を図っている点が高く評価できる。 ○授業における多文化共生や課題探究の取組，グローバルサロンなどの授業外での取組，さらに豊富なフィールドワークなど，多くの取組が行われ，質の高い生徒作成物が提出されていることや評価や成果の分析が丁寧に行われている点が評価できる。 ○ＰＤＣＡサイクルを強く意識し，パフォーマンス評価（ルーブリックによる評価)，生徒の資質能力の変容に関する評価（質問紙による評価）など，多様な検証方策が効果的に用いられている。ＳＧＨのモデルケースとして全国に発信すべき取組であり，更なる発展が期待される。
34	三重県立四日市高等学校	○カリキュラムの整合性を高め，目指す人材育成プロセスのさらなる明確化をはかっていく必要がある。 ○若手教員を積極的に参画させ，継続的な取組として学校文化の土壌を構築することを期待したい。また，管理機関である教育委員会の支援について，さらなる積極性が必要である。 ○今後生徒の学びを確かなものにしていくため，学校全体で取り組んでいけるような体制づくりが望まれる。
35	滋賀県立守山中学・高等学校	○独自テキストを作成しており，総合的な学習の時間や各教科で使用している点が評価できる。 ○外部との連携をはじめ，実践は意欲的であるが，成果と課題を丁寧に分析し，改善の方向性を明らかにしていくことが必要である。 ○課題研究とフィールドワークが乖離しているようである。例えば進学先訪問や，職場見学はフィールドワークではないため，探究の過程に組み込めるよう内容を改善する必要がある。
36	京都府立嵯峨野高等学校	○全体として各種の学習活動が豊富に設定されており，それらが相乗的な効果を生み出していると評価できる。 ○研究開発の内容の年次進行が適切に進められている。

		○教科横断的な取組になっているが，地域・海外連携型京都グローバルスタディーズ（ＫＧＳ）以外の科目における指導について，どのような変容があったのかについても評価していくことが必要である。
37	京都市立堀川高等学校	○優れた教材開発，授業実践が行われている点は，高く評価できる。 ○全体的に生徒の主体性をもとに，生徒自らの意欲に頼る形式であるため，参加する生徒の数が限定的である。今後は，学校としての取組となるよう工夫していく必要がある。 ○生徒の自主ゼミ型カリキュラムはグローバル人材育成教育として優れた方針である。一方で，例えば，アジアへの関心を高めることなど学校の意図的な教育指導体制も重要である。特に，京都大学との包括協定をアジアという視点から活用することも有効であり，今後，工夫していく必要がある。
38	立命館宇治中学校・高等学校	○ＳＧＨ推進機構を設置し，管理職をトップに教職協働で行う会議を時間割に位置付け，毎週ＳＧＨの取組を確認している点が評価できる。 ○学校として，多くのネイティブスピーカーと共に働く環境体制が整っているため，教員の英語習得の必要性が高まるとともに，管理機関による教員の海外派遣研修支援も行われている。今後は，教育方法として，アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善への取組についても，全校体制で取り組むことが期待される。 ○ＰＤＣＡサイクルを強く意識した枠組みに基づき，多角的な実践が蓄積されており，とりわけ多様な検証方策が効果的に用いられている。今後，モデルケースとして全国に発信することが期待される。
39	立命館高等学校	○世界とのつながりを意識した単元の展開を行っている点が評価できる。 ○チャレンジングな取組が生徒の資質能力の育成に生かされており，グローバルイシューに取り組んだ生徒たちの進路から今までより海外に目が向いているなど，アンケートからもその変容が伺える点が評価できる。 ○今後は，海外の大学との高大連携や企業との包括的な協力関係の構築などもう一段高い次元に挑戦することが期待される。
40	大阪府立北野高等学校	○大学と連携して取り組んでいる生徒の伸長に係る研究成果の検証に関して，調査に基づく分析が不十分であり，今後，これらの分析や生徒の感じた問題点等に基づくカリキュラムの質を高めるような改善が必要である。 ○それぞれの取組の連携が不十分で，全体として評価の方法が確立していないため，どのような成果があったのか見えず，工夫が望ま

		れる。 〇数々の活動を実施しているように見られるが，構想調書に書かれている課題研究（４つのアプローチ）が実施されていないようである。構想内容や当初計画と実施内容に関する確認，また生徒の意識調査についてアンケート調査等で分析する等，取組全体の改善が必要である。
41	大阪府立三国丘高等学校	〇ＳＧＨへの取組が明解であり，１年生，２年生のための課題研究の指導が効果的かつ生徒がより興味関心を抱くように十分に練られた活動となっており評価できる。 〇全教科の担当教員による課題研究への取組を実現し，先進国と発展途上国でのフィールドワークを実施することなどの工夫により，生徒の意識に明らかな変化を生み出している点が評価できる。 〇優れた実践が展開されているため，今後は取組を分析・省察することが必要である。
42	関西大学高等部	〇安全科学科での取組を生かした課題研究を構築し，特色あるテーマで取り組んでいる。 〇プロジェクト学習に関しては，国内外のフィールドワークをうまく組み合わせており，思考法，議論の仕方，文献分析，グループ交流といった一連の流れが構築されている点が評価できる。 〇今後は，研究テーマ設定方法の工夫による効果的な授業の構築，論文の評価法など，更に質の高い活動が期待される。
43	兵庫県立姫路西高等学校	〇ＳＧＨの対象生徒については，概ね成果が見え始めているため，今後も国内外の大学や企業と連携を進めながら，ＳＧＨの取組を拡充していけば，成果が期待できる。 〇各学年７クラスのうちＳＧＨ対象生徒が２クラスの生徒であるため，ＳＧＨ対象外生徒への広がりについて工夫が必要である。 〇探究が机上の空論に終わることのないよう，今後は現地調査，実験や試行錯誤など，体験的な活動がなされることを期待する。またこれらの取組によって，生徒の成長が示されていることを校内の教員で共有すること，対象生徒の成果が対象外の生徒たちに波及するよう配慮することなどの工夫も必要である。
44	神戸市立葺合高等学校	〇各教科で効果的な成果が見られ，計画に沿って順調に進捗している点が評価できる。 〇計画と実行についての報告が総じて分かりやすくまとめられ，課題も謙虚に受け止めて改善を図っており，今後の取組が期待できる。 〇取組は一定の高い効果を生み出し，適切に実施されている点が評価できる。しかし，グローバルスタディーズのテーマがやや一般的であるため，例えば，神戸に即したローカルな課題へと具体化する

		ことも重要である。
45	関西学院高等部	○本プログラムに参加した生徒にはきわめて意義ある成果が示されており，密度が濃く価値ある各種の活動が実施されている点は高く評価できる。一方で，少人数の生徒を対象とした課外活動に依存しており，教員の意識や授業方法の改革などの改善が必要である。 ○運営指導委員によるアドバイスは，専門的見地からの外部評価の機能を持つものであるので，課題研究に取り組む過程の適切な機会に運営指導委員会を開催することが必要である。 ○大学との連携が得やすい利点を生かし，教育評価の専門家の協力を得ながら取組の成果を示して行けるような指標について，研究的に取り組み，実証的に示していくことが期待される。
46	奈良県立畝傍高等学校	○東アジア地方政府会合など地方で行われている国際会議への参加や「未来創造会議」を到達目標に置いて実践を進めていく点などは評価できる。 ○グローバル英語やグローバル国語などの教科で熱心な取組がおこなわれている点は評価できるが，教科や科目の枠を超えた教科横断的な取組がやや不十分な点は改善が望まれる。 ○海外研修は事前事後の学びが重要であるので，今後はその点を強化することが望まれる。
47	西大和学園中学校高等学校	○途上国の貧困問題を取り上げて，全対象生徒を現地研修に連れて行く試みは高く評価できる。 ○取組を行った生徒の意識が変化している点が評価できる。 ○学校全体に取組を広げていくことと，企業や大学との連携を拡充することにより更に実質的なプログラム強化に取り組むことが期待される。
48	島根県立出雲高等学校	○意欲的な取組が随所に見られ，全体的に高いレベルの取組となっており，教員全体の意識改革，カリキュラムの継承などに向けた取組の更なる発展が期待される。 ○緻密に計画が立てられ，その計画に沿って取組が行われている。大学や企業などとの連携だけではなく，校内の教育においても，各教科の中でＳＧＨ化が図られ，課題研究などの活動をうまく補助しており，各活動の有機的な連携が見事に取れている点が評価できる。 ○教材開発，評価方法の開発などを試行している点，地元の大学，行政，産業界との連携，海外の学校との連携活動など，地方の県立高校の取組として高く評価できる。
49	岡山県立岡山城東高等学校	○教員の不十分な点を大学の教員や外部の支援をうまく取り入れながら実施している点が評価できる。 ○教員全員が生徒の取組に直接，主体的，継続的に関わるよう，組

		織・体制の改善が必要である。 〇様々な題材で岡山と世界の繋がりを意識した研究テーマが見られ，また多様なアンケートを実施し，目指す資質や能力をはかっている点が評価できる。
50	広島女学院中学高等学校	〇事業の取組に沿った生徒の育成，教員組織の構成は特筆すべきものがある。その一つの要因として，アクティブ・ラーニングへの指導法への転換がこの事業の効果を高め，着実に成果が上がっており，更なる発展が期待される。 〇テーマに沿ってよく練られた指導内容であり，生徒の成果物のレベルも大変高い。特に，平和，核，途上国開発など，難しいテーマを多様なアプローチで，重層的に考えさせ体験させる教育方法については，高く評価できる。 〇全教員が一丸となって研究開発に邁進し，アウトカム，アウトプットにおいて優れた数値が得られており，高く評価できる。
51	山口県立宇部高等学校	〇自発的に見通しを持って行動し，論理的に表現できる生徒が増えている点については評価できる。 〇ＳＧＨ対象の生徒とＳＧＨ対象外の生徒の比較では，多くの項目でほとんど差異が認められない取組結果となっており，改善が必要である。 〇着実に計画が実施され，一定の成果が出ていることは評価できる。一方でアウトリーチの持続可能性について不安が残るため，この点を工夫する必要がある。また，大学との連携をさらに活性化するなどの工夫も必要である。
52	徳島県立城東高等学校	〇各取組には，必ず「考察」と「検証」の項目が設けられている点が評価できる。 〇研修の諸段階で不十分な活動があることに気づき，早いタイミングで軌道修正できたことが評価できる。 〇テーマを健康とし，テーマに関係の深い地元企業との連携が図られ，また公民や保健体育などの教科が総合的な学習の時間，外国語，学校設定科目と関係してカリキュラムが構成され，特色ある取組が展開していると評価できる。今後はインドネシア研修について，対象となる生徒の拡大が望まれる。
53	愛媛県立松山東高等学校	〇課題研究に関わる内容についての研究開発だけでなく，英語科教員及びＡＬＴ，各教科の教員との協力により，内容言語統合型学習（ＣＬＩＬ）教材の開発や授業に取り組むなど，学校全体としての体制を整え，授業改善への取組を進めている点が評価できる。 〇校内の指導体制の充実とともに，愛媛大学との連携が功を奏して，課題研究の質が高いものとなっている点が評価できる。

		○地域の活性化や郷土の誇りを背負った学校が進めるクローバルリーダー育成のプログラムとして，一定の成果を上げている。
54	熊本県立済々黌高等学校	○一つ一つの取組は質の高いものであるが，それらの間の連携がやや弱い。また，ＳＧＨ対象生徒が少ない上，テーマが多岐にわたり，探究型の活動が実施できているのかが不明確である。今後のグループ体制での取組などに期待する。 ○多くの学外講師を迎え，学外機関との連携を図っている点は評価できるが，その一方で教員による指導の姿があまり見えないため，今後はこの点の改善が必要である。 ○ディベートなどを通しての英語運用能力の向上と課題研究との関係が不明確である点など，改善が必要である。
55	大分県立大分上野丘高等学校	○教科横断的な取組がなされていることや課題の観点を明示するなどの内容充実に意を注いでいることなどが，ＳＧＨの実践として評価できる。 ○全教員がＳＧＨ事業の計画・運営・評価等に関わっており，各教員の意識改革，授業改革につながっていることが評価できる。 ○「大分」を一つのキーワードにしており，立命館アジア太平洋大学との連携は順調に進んでいる一方，他の国立大学等との連携がほとんどないため，今後の連携を期待する。
56	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	○小規模校の特性や地域の特色を生かした密度の濃い学習活動が展開されており，本事業の目標が適切かつ十分に達成されつつあると評価できる。 ○教員の意識改革が進み，生徒の能力も育成されつつある。今後は，各教科の授業への波及効果について，成果として示すことが重要である。 ○様々なプログラムを展開しているが，今後，生徒の変容の測定や評価方法について検討することが望まれる。